

【（公財）東京動物園協会】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

高度な飼育繁殖技術や国内外とのネットワークを活用し、持続可能な社会の実現や東京の魅力向上に貢献する団体

重要課題 ①

国内外の野生動物の保全の重要性が高まる中、高度な飼育繁殖技術や国内外とのネットワークを活用し、いかに野生生物の保全や教育普及を展開していくか

検討の状況や今後の方向性

- 昨年度策定された第2次ズーストック計画にもとづき、都立動物園として保全活動を推進するとともに、「認定希少種保全動植物園」の認定を4園ともに取得し、トキやツシマヤマネコなど、希少野生動物の保護増殖事業に主体的に取り組んでいく。
- 「東京動物園協会野生生物保全基金」による助成制度を拡充し、全国における野生生物の保全活動を強力に推進する。
- 国内外の動物園・水族館や研究機関等とのネットワークを強化し、共同繁殖の取り組みや技術交流を進めるほか、国際会議への参加や、海外派遣研修により飼育繁殖技術の向上に取り組む。
- 新たに設置した「教育普及センター」により、4園全体の教育普及プログラムの総合調整、学校教育との連携強化、新たなプログラムの開発、既存プログラムの評価検証及び改善を実施し、「自然体験教育から環境保全教育へ」のステップアップを図る。

【（公財）東京動物園協会】の課題と今後の方向性

重要課題 ②	苦情・要望や利用者満足度調査によるPDCAサイクルを活用した利用者サービスの向上と、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えた新たなサービスの実施
検討の状況や今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">○ 新たに設置した「サービス向上委員会」により、独自の利用者満足度調査を実施するとともに、苦情・要望や既存調査結果も含めたPDCAサイクルを確立し、サービスレベルの継続的な向上を図る。○ 園路の段差解消、トイレのウォシュレット化、施設の自動ドア化等、全ての来園者が快適に利用できる環境を整備し、アクセシビリティのさらなる向上に取り組んでいく。○ 入場券販売時にクレジットカード・電子マネー等のキャッシュレスを導入し、既に導入している園内サービスと合わせ、4園全体でのキャッシュレス対応を実現する。○ 外国人来園者の割合が最も高い上野動物園において、2020競技大会期間に合わせ「ツーリストインフォメーション」を設置し、多言語による園内案内及び周辺観光案内や、多言語ガイドツアーを実施する。